

平成20年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)
大学教育の国際化加速プログラム(海外先進教育研究実践支援(研究実践型))
新融合研究領域展開プロジェクトの支援 (近似アルゴリズムの統一的設計法)

東北大学 大学院情報科学研究科
助教 伊藤 健洋

1. 渡航期間, 渡航先

平成20年10月15日～平成20年12月13日(60日間)及び
平成21年 1月 5日～平成21年 3月20日(75日間)の期間,
ベルギー・ブリュッセル自由大学に滞在。
ホストは Stefan Langerman (FNRS Senior Research Associate)

2. ブリュッセル自由大学(アルゴリズム研究グループ)の教育研究体制

アルゴリズム研究グループの教育研究の特色の一つが、未解決問題セミナーである。このセミナーでは、週によって異なる発表者の講演を基に、参加者全員が一丸となって研究に取り組む。講演者の分野は、計算機科学の分野内で幅広く、新しい知識を得ることができる一方で、多少土壌が違っていても研究に参加できる。これは、博士・修士課程の学生が多角的な視野を持てるよう教育する事に役立っている。

その一方で、少人数(2, 3人)による長期型研究を通じた教育も行われている。これは、一般的な大学の教育研究体制であると思われる。研究の総指揮を取る教授や准教授と、その補佐的役割を果たす助教やポスドク研究員といった若手研究員により、学生の研究指導がなされていた。ブリュッセル自由大学の恵まれている点は、ポスドク研究員の多さである。特に、ディスカッションが研究の主となるこの分野において、同年代の若手研究員と切磋琢磨できる環境は貴重である。とりわけ博士課程の学生にとって、同年代の研究員と共に苦しみながら1つの論文を書き上げる事は、大きな成長になる。

私の専門とする研究分野では、大きな実験を伴わないため、巨額の研究費は必要ないように見られがちである。しかし、研究員同士の Face-to-Face の交流、ポスドク研究員といった「物ではない」部分の充実が、研究だけでなく教育上も如何に大切か実感した。